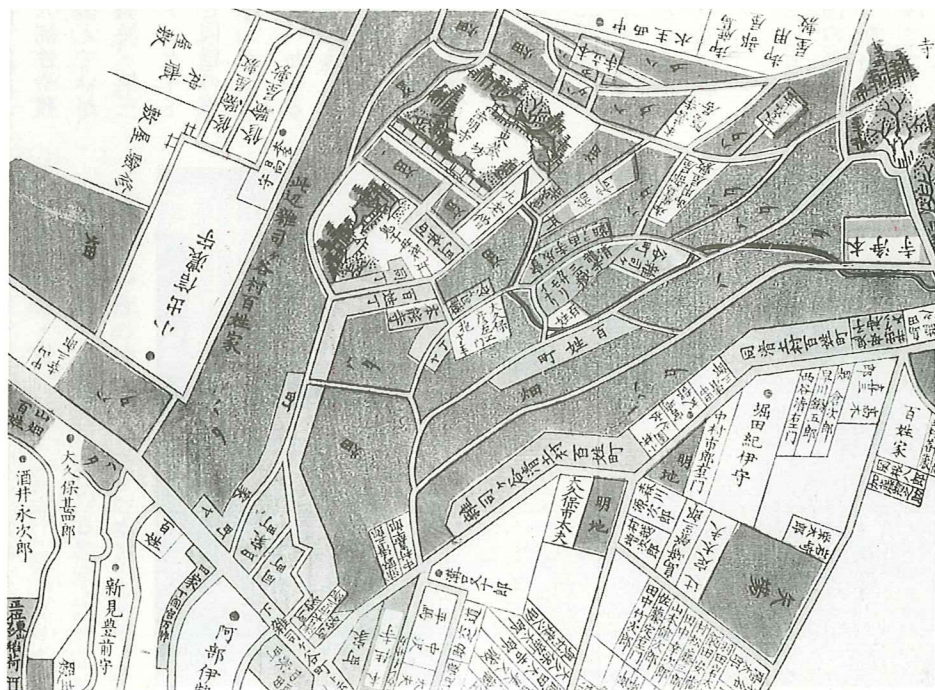


かたりべ 17

豊島区立郷土資料館だより



江戸切絵図の世界

江戸切絵図は、江戸の市街地とその近郊を、あわせて三十余枚に分割して作った絵地図集です。携帯の便を考えて、小さく折りたたむ形になっており、今で言えば「ポケット版東京絵入り区分図」といったところでしょう。

この切絵図は、幕末の安政四年（一八五七）に、切絵図の板元として名高い尾張屋から出された『雑司ヶ谷・音羽絵図』の一部です。カラーで見せできないのが残念なのですが、色鮮やかな多色刷で、江戸の名所である鬼子母神や法明寺などは目立つように派手な図案で描かれ、参詣者への配慮にも事欠きません。現在の地図とは違って方位も距離も度外視して、道などもゆがめてありますが、実に、見る人の心を楽しませる心憎いまでの地図なのです。

寺社や町場・武家屋敷に交錯するように描かれる畑、そして今は下水と化した弦巻川も見える——これが「都市と農村の間」である幕末の雑司が谷の姿です。

ここで紹介した絵図を含めて、区内に関わる切絵図四枚を複製した、当館編集『豊島区地域地図・第三集——江戸切絵図——』は、まもなく刊行の予定です。

（君塚）

戦争体験者の多くの方々は、「二度と戦争してはならない」と語り、戦争の非人間性や残酷さを「ぜひ戦争を知らない世代に伝えていかなければ」と言われます。今回の特別展、第三回「戦中戦後の区民生活」見学者のアンケートにも「若い人に見てもらいたい」など同様の声ですが、たくさん寄せられています。

第二次世界大戦（一五年戦争）は、いわゆる戦後生まれの世代に、実際のところどう伝えられ、どう受けとめられているのでしょうか。今回の特別展にわざわざ足を運んできた「戦争を知らない世代」の声を、アンケートから拾ってみました。

戦争の時、日本が国民にどのように戦争ということを教えてきたということがわかった。天皇は神であり、戦争は決して悪いことじゃないもう少し、ひとつひとつに説明がついているとよいのではないかと思います（女・12）

なにかもが戦争の事ばかりですごいと思った。戦争でなくなった人々も日本の国のために戦ってくれたので、えらいと思った。でも、いやいや行くのはちょっと……（女・11）

今、社会の勉強でなっています。とてもくわしく、よくわかるように字で表したり、その

時にあった物などで強く心をうたれたような感じがします（女・12）

国債のポスターに書かれている言葉が、とても生々しい感じがして、見ているだけでおそろ



しいと思いました（女・22）

自分の両親も昭和一ケタ世代なので体験しているはずですが、あまり話を聞いたこともありません。こうしてさまざまな資料を見るとあらためて戦争の非情さを感じます（男・21）

一億一心の急須・茶わんなどをみると、当時熱をおびた人々の姿が目に見えかぶようである。人々は、戦争中この状態に疑問をもたなかったはずはないだろう。それでも、終了のことばをきくまではやめることができなかったのである。何か納得しきれない思いが残った（女・19）

せんそうのときのことかすこしわかった（男・7）

戦争のことがすこしわかったような気がする。六年生のときの勉強にやくだつように覚えておくようにしたい（男・10）

サイダーのびんのとけ方がとてもすごい。ただ見ただけでは、びんだとはわからなかったと思う。その他、色々なむかしのポスターなどもあり、けっこうためになるものだと思う（男・13）

国債のポスターがすごく迫力があると思った。又、復興宝くじを見て、一億円の宝くじと騒いでいる現在と比べて、その時代は、国民が一生懸命だったのだと思った（女・20）

代用ボタンとして、石や木で作ったボタンが展示されていた。私にとって、木や石のボタンは、おしゃれなボタンである。わざわざ木のボタンに取り替えたりしたこともある。だから、この代用ボタンの展示を見ても、ピンとこなかった。戦争を知らない世代だからこのように感じたのでしょうか(女・21)

腹が立ったのは空襲対策である。人命を軽視したこの対策は本当に許せない!! 我々を何だと思ってるんだ!!ともう怒りが爆発した(女・21)

横書きの文は、今なら左から書くのに、右から字が書いてあるのがあって時代を感じた。旧仮名使いのポスターもはじめて見た。あの勇ましいポスターをずっと見つづけていたら、思わずついつい戦争に協力することが当然のような気分がするだろうと思うとおそろしかった(女・21)

国債のポスターがあざやか。物が無い時代の代用品のアイデアはなかなかのものであると思った(女・19)

戦中・戦後の生活が表面上はよくわかった。奥深い所は経験を通さないとわからないだろうが……(男・19)

自分は直接体験していない戦争というものの実態が少しは理解することができたような気がした(男・19)

まず焼い弾の大きさに驚きました。こんなのが空からポコポコ降ってきたらホントにこわいなと思いました。あと「写真週報」で「民草」に敬礼するのが、「やっぱあのひろひとさんだな——」とマジマジと見てしまった(男・25)

母からきいていた国債や焼い弾など本物がみられるとは思っていませんでした(女・27)

配給切符や通帳をはじめて見たので、戦後の生活が多少なりとも想像ができた(男・26)

戦争の時、みんな苦勞したんだと思った。(男・11)

戦時国債のポスターが多く紹介されていたが、この国債が敗戦後、ただの紙切れになってしまった。これを買った人たちの話も紹介してほしかった(男・30)

とても充実した資料に敬服した。「赤紙」とよばれるものが見たかった、残念。この種の資料を常時展示する博物館があってもよいと思う(男・24)

昔の服など、食器類があり、そのころの服装、生活のことなどわかりました(男・12)

戦後生まれのため、子どもに教える事が、教科書通りしかできず、私の父母も地方へ学童疎開していたため、ほんの少ししか話しをしてあげられなかったので、この特別展に来て大変良かったと思います(女・27)

戦時中の市民生活について、意外と知らない

ことが多いことに気づかされた。興味深かったものとして、特に戦時中のポスターがある。政府のたくみな操作を感じ、腹立たしくも感心してしまった(男・19)

服の券や、塩の券を実際にこの目でみると、とてもびびくりしました。本当にあつた話なんだなあとあらためて思いました(女・19)

映像や写真で見ると、はるかに心に迫るものがありました(男・30)

近・現代史に関する展示等は、現在あまり行なわれていないようなので、今回のこのような展示は、たいへんよいと思います。特に戦争に

関しては、国の主だった人物がメインとなって、国民の生活というのはあまり知る機会がありませんでしたので参考になる展示でした(男・26)

こうした戦時下の生活についての展示を、続けて開催していくことは、戦争というものを正しくとらえるためにも、大切なことだと思えます。具体的なものから、当時の生活が想い浮かんできます(男・27)

戦争の暗いイメージと、少しギャップのあるような、何となく明るい展示。(照明ではなくて

……)戦中の全体主義的な雰囲気づくりがよく判る。ただ、その展示から、それに対しての否定の気持ちの出でこない自分に恐いものを感じ

る(男・24)

(文責・長谷)

資料館主催の歴史講座のお知らせ——どちらも定員は四〇名です。受講希望の方は、資料館にお問い合わせください。——

〈女性たちの歩みにふれる〉

歴史の表舞台にあまり登場しない女性たち。その歩みをたどりながらもうひとつの日本史にふれてみましょう。

○日程・テーマ・講師

- ① 1・26 地域女性史を探る
 - ② 2・2 近郊農村の嫁たち
 - ③ 2・9 明治を生きた女性たち
 - ④ 2・16 大正デモクラシーと女性
 - ⑤ 2・23 豊島に住んだ女性たち
 - ⑥ 3・2 戦時下での役割
 - ⑦ 3・16 敗戦そして高度経済成長と女性
- 講師は、女性史研究家の折井美耶子氏が中心になります。

○講座の時間 毎週金曜日の午後二時から四時まで
○会場 一月二六日と二月二三日は、豊島区立郷土資料館研修室。その他は豊島区立勤労福祉会館四階の第四・五会議室。
(資料館と同じ建物です。)

(担当 長谷幸江)

〈江戸周縁の地域像〉

近世における豊島区地域は、將軍在居の「総城下町」江戸の周縁部に位置し、特色ある発展を遂げてきた。今回の歴史講座では歴史のみならず、考古学・民俗学の三つの分野から、豊島区地域を含めた江戸周縁部の地域像を考えてみませんか。

○日程・テーマ・講師

- ① 2・17 石占の伝承(民俗) 大島建彦(東洋大学)
- ② 2・24 疫神の信仰(民俗) 大島建彦
- ③ 3・3 染井遺跡調査の成果(考古学) 橋口定志(当館学芸員)
- ④ 3・10 地誌・随筆から見た雑司が谷・巢鴨(歴史) 君塚仁彦(当館学芸員)
- ⑤ 3・17 江戸の武家地について(歴史) 北原糸子(桐朋学園短大)

○講座の時間 毎週土曜日。午後二時から四時三〇分まで
○会場 各回とも、豊島区立勤労福祉会館四階の第四・第五会議室。
(資料館と同じ建物です。)

(担当 君塚仁彦/福岡直子)



資料館は、二月一日～二月七日まで展示変えのため閉館します。

二月八日より、常設展として、収蔵展示室は、また模様替えをします。豊島区地域がこれまで歩んできた歴史を各時代の特徴をあらわすようなそれぞれのテーマにもとづいて、いくつかのコーナーに分けて紹介しています。当館で所蔵している貴重な資料の一端を見ていただき、ご感想、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

一七号は特別展「第三回 戦中戦後の区民生活」を中心におとけしました。この戦争体験シリーズは、これからも取り組んでいく予定です。企画案など、積極的に寄せください。

なお、連載「豊島の遺跡」は、今回はお休みです。次号をご期待ください。(長)

かたりべ
No.17
1990年2月1日
発行
郷土資料館
豊島区立郷土資料館
豊島区西池袋2-37-4
電話03-980-2351